平成10年6月30日発行

NO 199

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
0724(83)4653

お知らせ

一、例会日
・七月十二日
種河神社　九時集合
・七月二十六日
種河神社　九時集合

二、大会案内
・二十四時間レースについて参加者が少なく中止といたします。次回には、参加よろしくお願いします。

三、今月の機関紙発行に時間がなく、内容がえーくて申し訳ございません。

以下はサロマ100キロマラソンの地元新聞の記事ですが一読してみて下さい。

サロマ湖100㌔ウルトラマラソン

砂田、ロード世界一

一般は神成、女子小山

【佐呂間、常呂】二十一日の98サロマ湖100㌔ウルトラマラソンで、初挑戦の砂田貴裕（積水化学）が世界最高の走りを見せた。100㌔男子日本陸連登記・登録競技者の部に出場した砂田は、序盤からトップグループに付け、50㌔手前で抜けだし独走。6時間13分33秒でゴールを駆け抜けた。これは国際ウルトラランナーズ協会（IAU）によると、100㌔のコードレースとしては世界最高タイム。三上勝文（新電元工業）が昨年のこの大会で出した日本最高記録も一気に11分余り短縮した。また100㌔女子同は小山昌子（埼玉陸協）が8時間21分26秒で、100㌔男子一般の部は神成降義（道医療大職）が7時間30分13秒でそれぞれ初優勝した。

【男子】▽登録100㌔ ①砂田貴裕（積水化学）6時間13分33秒＝日本最高②稲垣（本田技研鈴鹿）6時間54分21秒③三上（新電元工業）6時間56分41秒④河田（熊本教走ク）6時間59分11秒⑤近藤（福岡陸協）7時間39分4秒⑥草野（札幌市役所）7時間47分29秒▽一般100㌔ ①神成降義（道医療大職）7時間30分13秒②村田（安競桜井走ろう会）7時間37分36秒③入船（千葉大高医研）7時間42分51秒▽50㌔ ①奥野勝（大阪市役所）3時間32分50秒②牛木（アトミク）3時間34分12秒③谷川（東京電力）3時間36分7秒

【女子】▽登録100㌔ ①小山昌子（埼玉陸協）8時間21分26秒②貝畑（倉敷福田走友会）8時間33分56秒③広沢（武蔵村山市陸協）8時間47分57秒④田中（大沢野町陸協）8時間57分33秒⑤船田（URC）9時間8分24秒⑥関谷（大阪陸協）9時間28分3秒▽一般100㌔ ①宇野秀美（滋賀）9時間36分19秒②黒川（倉敷福田走友会）9時間38分19秒③塚原（サンウェイRC）9時間41分22秒▽50㌔ ①金谷智佐子（ゆかり&いずみ）4時間29分0秒②宮崎（ランナーズクラブ）4時間40分28秒③入室（網走陸上競技会）4時間42分59秒

▼ビニール袋で雨対策

男子一般100㌔優勝の神成は「筋肉痛など思いがけない事態に見舞われることが、フルマラソンより多い。だから準備は大切。今回はビニール袋をかぶって雨対策は万全だった」と笑う。100㌔マラソンは六度目の出場。一日20㌔、月600㌔を目標に練習をしてきた。「完走するためには精神的にも強さが求められ、それがこの競技の魅力でもある。来年もプラス思考で走り抜きたい」

▼百点満点の走り満足

女子登録100㌔を制した小山は「ほぼ目標通りのタイムを出せたし百点満点の走りです」とうれしそう。体力の限界に挑戦するのが100㌔マラソンの魅力とか。[illegible]ない、この大会を目標に練習を続けている。今回は4回目の出場で、昨年は2位。最初から飛ばすレース運びで、10㌔地点で2位以下に500㍍以上の差をつけた。体調は良かったが雨と寒さがこたえたという。「今までで一番の寒さでかじかんだ。北海道の寒さは半端じゃないですね」

100kmウルトラマラソン
SEKISUI
アミノバイ

声援の中、日本最高記録でゴールに駆け込む砂田貴裕

初挑戦　助言、激励で　楽しくレース

砂田

100㌔初挑戦の砂田にとって、レースは序盤から驚くことばかりだった。未知の長丁場に備え、一週間前から60㌔の長距離走を続けてきたが、予想以上のハイペースに手を焼いた。二つ目は、マラソンならへとへとでゴールする42㌔地点が「すぐでした。通過するのがとても早かった」と、逆に余裕があったこと。

折り返した後、すれ違う後続の市民ランナーが次々と激励の声を掛けた。これはうれしかった。「あの人たちは十数時間かけても走り抜く覚悟なのかと思うと頭が下がる。ぼくにはとてもできない」

助言ももらった。ともにトップ集団で黙々とゴールを目指していた三上が突然話しかけてきた。「去年はもっと速いペースだったが、後半ばててしまったんだ」。日本最高記録を出した昨年のレース展開のことだった。100㌔のペース配分を測りかねていた砂田には願ってもないアドバイスだった。不安なレースが、がぜん楽しくなってきた。雨が上がり路も乾いてきた。

マラソンでは2時間12分1秒の自己ベストを持つ。一九九五年にアテネであったマラソンのワールドカップでは2位に入った。だが練習中に右足甲を痛め、昨年六月に手術。傷はいえたが、思うような走りが戻らなかった。

100㌔マラソンには「復調のため、何かつかめるものがあれば」という狙いで出場した。手にした収穫は多そうだ。「最高記録は多くの人に支えられたおかげ。次に出るマラソンは相当短く感じられるでしょう」

次とは八月の北海道マラソンのこと。過去4位と6位が一度ずつある。「北海道は本当にゲンのいいところです」と疲れ知らずの笑顔を見せた。

（荒木　太郎）

全道高校体育大会

バレーボール

札第一、23年ぶり優勝

サッカーでも初の栄冠

21日

バレーボール、サッカーなど7競技を行った。バレーボールは、男子決勝で札第一が二十[illegible]連覇中だった東海大四を2－0で下し、二十三年ぶり二度目の栄冠

北海道新聞　1998年(平成10年)6月22曜日

サロマ湖100キロマラソン

雨の中の戦いに熱い声援

【湧別、佐呂間、常呂】98サロマ湖100㌔ウルトラマラソン（北海道陸上競技協会、北海道新聞社など主催）は二十一日、湧別町など出発、常呂町ゴールで開かれた。あいにくの雨にたたられた今年の大会。最高気温が一〇度に満たない最悪のコンディションだったが、沿道の熱い声援が、ランナーたちを励ました。百㌔にかけたランナーの思いと、温かい地元のもてなしぶりを紹介する。

全盲の和田さん力走

伴走の妻と100㌔に挑戦

大会では、目の不自由な人も伴走者の助けを借りて力走。東京都のマッサージ師和田彦さん(六七)は、伴走の妻紀代子さん(五七)と短いロープを握り合ってスタート。全盲の和田さんは、これまで五十㌔を完走、三年前は百㌔に臨んだが、五十㌔地点で棄権。「ここ二年は体調を崩し休みましたが、もう一度百㌔に挑戦しようと二人で話し合って参加しました。今回も完走は無理だと思いますが、二人で行けるところまで頑張ります」と、お互いに体調を気遣いながら、足を進めていた。

互いに声を掛け合いながら力走する和田さん夫婦

73才"卒業"レース

◯…百㌔コースの最高齢は、出場七回目の兵庫県の無職片岡蔵さん(七三)。これまで四回完走を果たしたが、昨年はレース途中で体調を崩し、六十㌔地点で残念ながらリタイア。「昨年は寒さに負けました。しかし今年は涼しいから大丈夫。十二時間五分の自己ベスト更新を狙います」と意気軒高にスタート。今年は四月から毎週二、三回のペースで計七百㌔走り込み、準備は万全。「今回でこの大会は"卒業"するつもり。サロマ湖の雄大な風景を目に焼き付けて走ります」

[illegible]

◯…鳥取県の公務員宮多孝一さん(二八)さんは、ワールドカップサッカー日本代表の中山雅史選手のユニホームそっくりのTシャツを着て百㌔に臨んだ。「実は十四日のアルゼンチン戦観戦にフランスへ行くはずだったのですが、例のチケット騒動でツアーがキャンセルになってしまって…」

百㌔は三回目の出場。過去二回は途中棄権しており、今回こそ完走を、と意気込んでいるが、「前夜のクロアチア戦惜敗でまたがっかり。テレビ観戦で寝不足気味なので完走は厳しいですが、最後のジャマイカ戦勝利を祈って頑張ります」。

アミノバイタル
1792

マッサージに高校生大忙し

◯…常呂町カーリングホールでは、常呂高生がゴールインした選手たちの筋肉をほぐす、おなじみのマッサージサービス。「若い女性だと、少し緊張するね」と話す男性ランナーに対し、同校二年の栗原麻衣さん(一六)は「初めてだけどとても楽しい。選手と話しながらできるからかな」と屈託がない。寒さでリタイアする選手が続出したため、生徒たちは大忙しだった。

「お疲れさまでした」とマッサージをする常呂高生

12回連続完走達成

◯…新たに導入された十回以上の完走者だけに許されるブルーのゼッケン「サロマンブルーメンバー」の一人、同大会の五十㌔部門で優勝したこともある大友国男さん(五七)＝津別町林業＝は今回、百㌔の部に出場。十二回連続の完走を果たし、面目躍如。「ブルーのゼッケンが目立ったのか、レース中に声をかけられました」と息を弾ませた。「今回は久しぶりにきつかった。特にワッカ原生花園の強風は寒かったね」と厳しいレースを振り返ったが、「あと三回は出て、十五回連続出場を目指します」と力強く語っていた。

外国人選手も出場

◯…百㌔の外国人選手は、米国人ダン・ウイットモアさん(四七)ただ一人。米ニューハンプシャー州の日米合弁の自動車部品会社に勤める傍ら、全米各地のマラソン大会に出場してきた。「念願の日本訪問がサロマ湖マラソンでかないました。北海道は緑が美しく、大好きなすしもおいしくてハッピーです」

米国では百マイル(約百六十㌔)マラソンを走るなど経験豊富で、「日本の友人を増やしたい」と話していた。

念願の日本のマラソンを楽しむウイットモアさん